

# 年間授業計画（シラバス）

令和5年度（2023年度）

## 第3学年

東京都立新宿高等学校

教務部

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	現代文B	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	志村直子・野中裕・湯田雅也
		講座名	現代文B	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	高等学校現代文B(三省堂)
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代から現代までの様々な文章に接し、内容を的確に理解し、他者に伝達できる表現力を育成する。</li> <li>・文学的文章の読解を通じて、感情を表現する方法を理解し、併せて高度なコミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・論理的文章の読解を通じて、主張を論理的に述べる方法を理解し、また自己の主張を他者に伝える力を身に付ける。</li> <li>・共通テスト・国公立二次試験に向けて、実践的な得点力を育てる。</li> </ul>							副教材	新国語便覧(第一学習社) 頻出漢字2500(文栄堂) 現代文単語評論・小説(桐原書店) ちくま評論選二訂版(筑摩書房) 共通テスト対策現代文完答22(尚文出版) 完成日本文学史ノート(京都書房)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	評論『なぜ』に答えられない科学(池内了) 評論「身体(の)疎外」(黒崎政男) 小説「舞姫」(森鴎外)	小説「舞姫」(森鴎外)	評論「虚ろなまなざし」(岡真理) 評論「猫は後悔するか」(野矢茂樹)	評論「疑似群衆の時代」(港千尋) 評論「日本文化の雑種性」(加藤周一)	大学入試問題演習
指導項目	展開と構成に沿った評論の読解 作者の主張を分析し、再構成する表現力 近代文語文体小説の基本的な読解	近代文語文体小説の基本的な読解 登場人物の行動と感情変化に即した小説の読解 小説の主題まとめ・評価等の表現力	現代社会をグローバルな視点で捉えた評論に触れ、 広い視野を養う 言語・記号論という抽象的な単元を扱うことで、日常 に隠された社会構造を読み解く	文化に関係する評論を2つ取り上げ、近世から近代・ 現代に至る文化の潮流を把握する 読解と表現力の確認をおこなう	
補講 講習	脚問個別指導	脚問個別指導	小論文個別指導 記述対策個別指導	小論文個別指導 記述対策個別指導	

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	5月1日	7月7日 7月10日			10月8日 10月29日	11月8日 11月9日				
	評論 小説	評論 小説			評論 小説	評論 小説				

評価の観点 評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①下読みから授業、授業から復習・確認という流れが出来るか。</li> <li>②言語文化に対する関心を深め、漢字や語句の学習を行い、豊かな語彙を身に付けることが出来るか。</li> <li>③評論の内容を全体構成の中に位置付けて理解し、まとめを行い、理解した内容を表現することが出来るか。</li> <li>④以上の観点から、定期考査・課題・小テスト等により総合的に評価する。</li> <li>⑤小説を登場人物の行動と心理変化に沿って理解し、理解した内容を自己の問題に置き換えて表現することが出来るか。</li> <li>⑥以上の観点から、定期考査・小テスト・課題等により総合的に評価する。</li> </ol>
---------------	--

日常の 学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①単元学習の前に下読みを行い、漢字・語彙の下調べを済ませ、疑問となる項目を挙げておく。</li> <li>②授業では主体的に疑問点に取り組み、指導内容と個々の考えをすり合わせて、自己の疑問点を解決する。</li> <li>③復習として、授業内容の確認を行い、より深い読解と表現力を養う。</li> <li>④漢字テストを行って漢字力を定着させ、また現代文単語集を使用して語彙を増やしていく。</li> <li>⑤問題集・過去問題等を通じて、実践的な学習を行う。</li> </ol>
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	必履修科目であり、2年次に引き続いて計4単位を履修する。現代文は全ての科目の基礎となり、現代社会を生きる上で必須の科目である。 授業内容は、生徒の実態に応じて変更することがある。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	古典B	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	石井明子、泉雅代
	国語	講座名	古典B	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	精選古典B(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に親しむことにより、先人の考えに触れ、そこから多くを学びとる。</li> <li>・多くの古典の文章を読むことにより、語彙力を身につけ、読解力を養う。</li> <li>・言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</li> <li>・2学期後半からは大学入学試験に向けての実践的な力を養う。</li> </ul>							副教材	新版六訂 カラー版新国語便覧(第一学習社) 完成日本文学史ノート 三訂版(京都書房) 九訂版読解をたいせつにする体系古典文法(数研出版) 古文単語330(いっずな書店) 共通テスト対策古典完答22(尚文出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	物語 『大鏡』『花山天皇の出家』 日記 『蜻蛉日記』『なげきつつひとり寝る夜』『あまぐもにそる鷹』	日記 『和泉式部日記』『夢よりもはかなき世の中を』 物語 『源氏物語』『須磨の秋』	物語 『源氏物語』『母と子の別れ』『萩の上露』 評論 『源氏物語玉の小櫛』『ものものあはれの論』 評論 『無名草子』『紫式部』	大学入試問題演習	大学入試問題演習
指導項目	用言、敬語等の文法	助動詞の復習	助動詞の完成	識別練習	大学入試問題演習
補講講習	基礎力定着のための個別指導	基礎力定着のための個別指導	記述対策個別指導	記述対策個別指導	記述対策個別指導

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	5月1日	7月7日、10日			10月8日、29日	11月7日、8日				
	古典Bで学ぶ内容の全範囲	古典Bで学ぶ内容の全範囲			古典Bで学ぶ内容の全範囲	古典Bで学ぶ内容の全範囲				

評価の観点 評価方法	①日々の授業、および予習・復習・課題等に対して、積極的に取り組んでいるか。 ②言語文化に対する関心を深め、古典の読解に必要な基礎的な語彙や文法の知識を身につけることができたか。 ③古典作品を的確に理解し、それをもとに自らの考えを相手にわかるように伝え、話し合うことができたか。 ④古典をとおして自らの思考力や想像力を伸ばし、感性を磨くことができたか。 以上の観点から、定期考査・提出物等により総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①予習として、語彙の調べ学習、現代語訳等を行う。 ②授業では予習でわからなかった部分を中心に、新たな知識を得るとともに、知識の正しい活用の仕方を学ぶ。 ③復習として授業で学んだ事項の整理をして定着を図る。 ④問題集等の副教材で発展的な学習を行う。
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	必修履選択科目であり、文系生徒は2年次生で履修した「古典B」3単位の継続して学習する。2年次で学んだ事項の上にさらに発展的な学習を行い、古典の世界を味わえるようにする。 授業内容に関しては、生徒の実態に応じて変更することがある。
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	漢文講読	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	志村直子
	国語	講座名	漢文講読	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	精選古典B・漢文編(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国の古典である漢文に触れることで、日本文化の源流と古代の文化交流について学ぶ。</li> <li>漢文の構造を知り、正しい訓導法と句法を身に付けることで、作品世界の深い読解力と鑑賞力を育成する。</li> <li>古代中国の歴史と思想の知識を得て、時代と地域を越えた人間の普遍性について考察する。</li> <li>二学期からは、共通テスト・国公立2次試験・私大受験に向けて実践的な演習を行う。</li> </ul>							副教材	新国語便覧(第一学習社) 体系古典文法 九訂版(数研出版) 新明説漢文(尚文出版) テーマ別漢文ウイニングクリア3(尚文出版) 公立二次過去問題古典編(数研出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	古体詩「長恨歌」(白居易) 「春夜宴桃李園序」「月下独酌」(李白) 「五柳先生伝」(陶潜)	諸子百家 国寡民「老子」 「何必曰利」「無恒産無恒心」(孟子) 官之害「韓非子」	史記「荊軻伝」(司馬遷) 宋八大家の文章「売油翁」(欧陽脩)	唐 過去問題演習	大学入試問題演習
指導項目	2年次までの復習 訓読・書き下し文・基本句法の練習 古体詩の知識、漢文の日本文学への影響	中国古代思想の流れと各思想の内容の把握	人物の行動、心理に沿った読解 句法全般についての理解と用字の知識の習得	寓意性の高い文章の正確な読解 共通テストに向けた実践的演習 国公立・私大入試に向けた実践的演習	国公立・私大入試に向けた実践的演習
補講講習	個別指導(基本的語彙・句法)	個別指導(漢文の用字・訳出)	個別指導(記述試験対策)	個別指導(記述試験対策)	個別指導(記述試験対策)

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	5月1日	7月7日			10月8日	11月7日				
	漢文	漢文	大学入試共通テスト対策・夏期講習		漢文	漢文	国公立2次試験対策・冬期講習			

評価の観点 評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①予習(ノート作り)による事前学習を授業で確認し、復習による定着を行うというサイクルに取り組んでいるか。</li> <li>②授業に真剣に向き合い、事前に持っていた疑問点を解決できたか。</li> <li>③中国の古典を正しく訳出・理解し、理解した内容を他者に伝える表現力を持っているか。</li> <li>④古典世界への知識を増やし、思考力や想像力を伸ばし、作品世界への共感力を持つことができたか。</li> <li>⑤大学受験に対応することの出来る応用力を育成することができたか。</li> </ol> 以上の観点から、定期考査・課題等により総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①単元学習の前にノート作りを行い、白文・漢文・書き下し文の構造を理解する。また、用言と目的語・補語との語順および句法を確認しておく。</li> <li>②予習した内容を授業で再確認し、語順・句法・用字に留意した訳を行う。</li> <li>③授業で学んだ事項を復習し、反復練習による定着を図る。</li> <li>④問題集等の副教材を使い、発展的学習を自主的に行う。</li> </ol>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	必修履修選択科目であり、文系の生徒は2年次で履修した「古典B」(3単位)に継続して学習する。 2年次で学んだ漢文知識を基礎として、より発展的な内容の授業を行い、中国古典世界を深く味わう。 授業内容に関しては、生徒の実態に応じて変更することがある。
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	現代文演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	福島 万葉子
	国語	講座名	現代文演習	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	高等学校 現代文B 改定版(三省堂)
目標 (学習を通して身につける学力)	大学入試対策として、大学の過去の入試問題の演習を行うことによって、読解力や解答するための記述力を養っていく。							副教材	過程の演習 新国語問題集 現代文編(京都書房)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	・文章読解と、記述を中心とした解答の基礎的演習を行う。 論理的な文章と文学的文章双方について演習する。	・問題集「過程の演習 新国語問題集 現代文編」を用いて、文章読解と、記述を中心とした解答の演習を行う。 論理的な文章と文学的文章を扱う。	・問題集「過程の演習 新国語問題集 現代文編」を用いて、文章読解と、記述を中心とした解答の実践的演習を行う。 ・論理的な文章と文学的文章を扱う。	・国公立大学の過去問題を中心に、実践的な問題演習を行う。	志望校の過去問題を中心に問題演習を行う。
指導項目	大学入試に対応するための、基本的な読解方法および基礎的な記述方法を押さえる。	大学入試に対応するための、基本的な読解方法および基礎的な記述方法を押さえる。	大学入試に対応するための、より実践的な読解力と記述力を養う。	大学入試に対応するための、より実践的な読解力と記述力を養う。必要に応じて個別の答案添削を行う。	入試に対応した、具体的なアドバイスをを行う。
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	5月22日	7月3日			10月19日	12月1日				
	評論 小説	評論 小説	国公立大二次および難関私立大学対策夏期講習		評論 小説	評論 小説				

評価の観点 評価方法	<p>○評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・的確に読解できるか。</li> <li>・問題の意図に沿って、的確に解答できるか。</li> <li>・適切な解答を書くことができるか。</li> <li>・与えられた時間内に解答できるか。</li> </ul> <p>○評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査及び授業での課題の提出によって、総合的に評価する。</li> </ul>
---------------	---

日常の 学習方法	<p>○予習として、問題集の問題を解答する。解答にあたって次のことに留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文をしっかり読み、本文全体の構成と展開に注意する。具体的には段落に分け、論の展開を掴む。</li> <li>・選択肢問題では、答えの根拠となる本文を押さえる。</li> <li>・記述問題は、問題の意図に沿って、解答のための本文を押さえたうえで、解答する。</li> </ul> <p>○評論で頻出する語句や小説などにある慣用表現の意味を辞書等で確認する。</p>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題集の問題を、必ず解いてくること。</li> <li>・授業には辞書(電子辞書も可)を携行すること。</li> </ul> <p>*受講生の実態に合わせて、内容を変更することがある。</p>
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	小論文演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	石井明子
	国語	講座名	小論文演習	単位数	2単位	形態	少人数	教科書	特に指定しない
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題演習を中心とした学習により、大学入試に対応できる論理的思考力、文章表現力を養う。</li> <li>・小論文記述のための知識や情報は、書物や新聞等を活用し、社会問題や各分野の課題について理解を深める。</li> </ul>							副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新版六訂 カラー版新国語便覧」(第一学習社)</li> <li>・国公立、私立大学の小論文入試問題等</li> </ul>

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文の基礎知識と要約練習</li> <li>・社会問題について把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野別テーマについての小論文演習</li> <li>・社会問題について理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野別テーマについての小論文演習</li> <li>・社会問題について思考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各志望校に応じた小論文演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各志望校に応じた小論文演習</li> </ul>
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文を書く手順、段落構成、出題形式等について学ぶ。要約を通じて、読解力や記述力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文演習を通じて思考力、基礎的記述力を身につける。また、現代社会が抱える問題について理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文演習を通じて思考力、基礎的記述力を身につける。また、現代社会が抱える問題について理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自志望校の過去問題に取り組むなど、志望別に演習・添削を行い、更に記述力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自志望校の過去問題に取り組むなど、志望別に演習・添削を行い、更に記述力を養う。</li> </ul>
補講講習	必要に応じて適宜実施する。	必要に応じて適宜実施する。	必要に応じて適宜実施する。	必要に応じて適宜実施する。	必要に応じて適宜実施する。

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
定期考査・休業中の課題等は実施しない。以下同じ										

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に書く小論文の評価を重視するが、授業に対する取り組みの状況、提出物等も含め、総合的に評価する。</li> </ul>
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き方やテクニックを受け身に学ぼうとする姿勢では小論文を書くことはできない。多くの文章に触れ、様々な社会的事柄に対して自分事としてとらえると共に、そこに「問い」を発見し、問題や課題に対して、考えや解決策を答えていく姿勢を養うことが重要である。</li> </ul>
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特記事項なし</li> </ul>
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	文系古典演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	池田 篤 志村直子 野中 裕
	国語	講座名	文系古典演習	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立2次試験および私大入試問題に触れ、初めて見た古文に対しても文法と単語に即した理解ができ、設問に答えることのできる力を育成する。</li> <li>・大学受験の問題傾向と出題意図を見つけ出し、発問に対する不足のない判断・記述ができる応用力を身に付ける。</li> <li>・問題演習を繰り返すことによって、時間制限のある中で問題に対応できる技術を育てる。</li> <li>・大学受験を通して豊かな古典文化の一端に触れ、教養を高める。</li> </ul>							副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体系古典文法(数研出版)</li> <li>・アップリフト古文 入試標準(Z会編集部)</li> <li>・国公立二次過去問選 古典編(数研出版)</li> <li>・新国語便覧(第一学習社)</li> </ul>

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	「アップリフト古文 入試標準」を主に使用し、物語文等の人物関係やストーリー性のある分野を主に、随筆・歌論等を含めて適宜演習する。 「アップリフト古文 入試標準」 1 無名草子 2 俊頼髓脳 3 大鏡 4 宇治拾遺物語 5 源氏物語 7 宇治拾遺物語	「アップリフト古文 入試標準」を主に使用し、物語文等の人物関係やストーリー性のある分野を主に、随筆・歌論等を含めて適宜演習する。 「アップリフト古文 入試標準」 11 平中物語 12 庚子道の記 14 枕草子 16 伊勢物語 17 更級日記	「アップリフト古文 入試標準」が終了次第「国公立二次過去問選 古典編」を主に使用し、物語文等の人物関係やストーリー性のある分野を主に、随筆・歌論等を含めて適宜演習する。 「アップリフト古文入試標準」 22 六百番歌合 25 横笛草子 「国公立二次過去問選 古典編」 1 宇治拾遺物語 4 本朝桜陰比事 6 栄花物語	「国公立二次過去問選 古典編」を主に使用し、物語文等の人物関係やストーリー性のある分野を主に、随筆・歌論等を含めて適宜演習する。 「国公立二次過去問選 古典編」 9 俊頼髓脳 11 広益俗説弁 13 源氏物語 15 唐物語	入試直前演習
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用言(動詞・形容詞・形容動詞・助動詞)と助詞に即した訳出の出来る古典文法力</li> <li>・敬語の正しい理解を基礎とした、人物同士の身分関係を把握する力</li> <li>・語彙の拡大と定着による、文章の大意を把握する力</li> <li>・文学史や古典世界の知識に裏付けられた、内容理解力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用言(動詞・形容詞・形容動詞・助動詞)と助詞に即した訳出の出来る古典文法力</li> <li>・敬語の正しい理解を基礎とした、人物同士の身分関係を把握する力</li> <li>・語彙の拡大と定着による、文章の大意を把握する力</li> <li>・文学史や古典世界の知識に裏付けられた、内容理解力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用言(動詞・形容詞・形容動詞・助動詞)と助詞に即した訳出の出来る古典文法力</li> <li>・敬語の正しい理解を基礎とした、人物同士の身分関係を把握する力</li> <li>・語彙の拡大と定着による、文章の大意を把握する力</li> <li>・文学史や古典世界の知識に裏付けられた、内容理解力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用言(動詞・形容詞・形容動詞・助動詞)と助詞に即した訳出の出来る古典文法力</li> <li>・敬語の正しい理解を基礎とした、人物同士の身分関係を把握する力</li> <li>・語彙の拡大と定着による、文章の大意を把握する力</li> <li>・文学史や古典世界の知識に裏付けられた、内容理解力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用言(動詞・形容詞・形容動詞・助動詞)と助詞に即した訳出の出来る古典文法力</li> <li>・敬語の正しい理解を基礎とした、人物同士の身分関係を把握する力</li> <li>・語彙の拡大と定着による、文章の大意を把握する力</li> <li>・文学史や古典世界の知識に裏付けられた、内容理解力</li> </ul>
補講講習	個別指導(模範解答の内容指導)	個別指導(模範解答の内容指導)	個別指導(模範解答の内容指導)	個別指導(模範解答の内容指導)	個別指導(模範解答の内容指導)

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
	7月7日			10月8日 10月29日			
	古文			古文 古文			

評価の観点 評価方法	<p>①多様な入試形態に対応できる古典文法力・訳出に十分な古典語彙力を持っているか。</p> <p>②人物関係に応じた敬語の種類判別ができ、人物相互の上下関係を把握できるか。</p> <p>③設問の指示に応じて考え、要求を満たす答を判別・記述解答できるか。</p> <p>以上の観点から、定期考査・課題等により総合的に評価する。</p>
---------------	--

日常の 学習方法	<p>①授業で得た知識と能力を復習・反復練習によって定着することが大切である。</p> <p>②入試に頻出する設問には確実に対応し、出題傾向を変えられても臨機に対応できる応用力も身に付ける。</p> <p>③自主的に辞書・文法書・単語帳を活用し、自ら調べる姿勢を持つ。</p>
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との 関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文問題を扱い、漢文問題については原則として扱わない。</li> <li>・文法力と語彙力については、課題プリント・小テスト等により定着を確認する。</li> <li>・様々な出題分野・出題傾向に対応できる力を養う。</li> <li>・授業内容については、生徒の実態に応じて変更することがある。</li> </ul>
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	理系古典演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	湯田雅也
	国語	講座名	理系古典演習	単位数	2単位	形態	少人数	教科書	精選古典B 古文編・漢文編(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に親しむことにより、先人の考えに触れ、そこから多くを学びとる。</li> <li>・多くの古典の文章を読むことにより、語彙力を身につけ、読解力を養う。</li> <li>・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重しその向上を図る態度を育てる。</li> <li>・大学入学共通テストに向けての実践的な力を養う。</li> </ul>							副教材	新国語便覧(第一学習社) 体系古典文法八訂版(数研出版) 古文単語330(いっずな書店) 新明説漢文(尚文出版) 共通テスト対策古典完答22(尚文出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	評論『無名草子』(紫式部) 諸子百家「小国寡民」(老子) 諸子百家「侵官之害」(韓非子) 古文単語小テスト 古文・漢文文法プリント	物語『源氏物語』「夜深き鶏の声」 史記「荊軻伝 函竊而匕首見」(司馬遷) センター過去問演習 古文単語小テスト 古文・漢文文法プリント	物語『源氏物語』「萩の上露」 小説「離魂記」 センター過去問演習 古文単語小テスト 古文・漢文文法プリント	センター過去問演習・共通テスト対策演習 古文単語小テスト 古文・漢文文法プリント	共通テスト対策演習 古文単語小テスト 古文・漢文文法プリント
指導項目	2年次の復習 (用言、助動詞、敬語等の文法及び古典常識等及び漢文基礎文法)	2年次の復習 (用言、助動詞、敬語等の文法及び古典常識等及び漢文基礎文法)	既習事項をまとめながらセンター過去問演習を行う。	既習事項をまとめながらセンター過去問演習及び大学入学共通テスト演習を行う。	既習事項をまとめながらセンター過去問演習及び大学入学共通テスト演習を行う。
補講講習	基礎力定着のための個別指導	基礎力定着のための個別指導	基礎力定着のための個別指導	基礎力定着のための個別指導	

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	5月10日	7月7日、8日			10月4日、30日	11月8日、9日、20日				
	古典Bで学ぶ内容の全範囲	古典Bで学ぶ内容の全範囲			古典Bで学ぶ内容の全範囲	古典Bで学ぶ内容の全範囲				

評価の観点 評価方法	①日々の授業、および予習・復習・課題等に対して、積極的に取り組んでいるか。 ②言語文化に対する関心を深め、古典の読解に必要な基礎的な語彙や文法の知識を身につけることができたか。 ③古典作品を的確に理解し、それをもとに自らの考えを相手にわかるように伝え、話し合うことができたか。 ④古典をとらえて自らの思考力や想像力を伸ばし、感性を磨くことができたか。 以上の観点から、定期考査・提出物等により総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①予習として、語彙の調べ学習、現代語訳等を行う。 ②授業では予習でわからなかった部分を中心に、新たな知識を得るとともに、知識の正しい活用の仕方を学ぶ。 ③復習として授業で学んだ事項の整理をして定着を図る。 ④問題集等の副教材で共通テスト対策を行う。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	世界史B	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	横田 成洋
	地理歴史	講座名	世界史B	単位数	4単位	形態	クラス単位	教科書	『世界史B 新訂版』実教出版
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前近代における世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解する。</li> <li>・地理的条件や日本の歴史と関連づけながら歴史をとらえることができる。</li> <li>・諸資料を読解し、その成果を適切に表現できる。</li> <li>・世界各地の文化の多様性や複合性を多面的・多角的に考察できる。</li> <li>・現代世界の特質や課題を広い視野から考察できる。</li> </ul>							副教材	『アカデミア世界史』 浜島書店 自作プリント

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0. 文明以前の人類 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 人類の登場～2 地域文化の形成</li> </ul> </li> <li>・1. オリエンタル世界と東地中海世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンタル世界の成立～4 ヘレニズム世界</li> </ul> </li> <li>・2. 地中海と西アジア <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 都市国家から世界帝国へ～4. 地中海世界と西アジア</li> </ul> </li> <li>・3. 南アジア世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 南アジアにおける文明の成立と国家形成～2. インド世界の形成</li> </ul> </li> <li>・4. 東アジア世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 東アジアにめばえた文明～3. 東宝の世界帝国</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5. 中央ユーラシア世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 騎馬遊牧民国家の興亡～2. 草原地帯のトルコ化とイスラーム化</li> </ul> </li> <li>・6. 東南アジア世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 海の道の形成と東南アジア～2. 東南アジア諸国家の再編成</li> </ul> </li> <li>・7. アフリカ、オセアニア、古アメリカの地域世界 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. アフリカ ～ 3. 古アメリカ</li> </ul> </li> <li>・8. イスラーム世界の形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. イスラーム世界の成立～3. イスラーム文明</li> </ul> </li> <li>・9. ヨーロッパ世界の形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 東ヨーロッパ世界～6. ルネサンス</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10. 東アジア世界の変容とモンゴル帝国 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 唐の崩壊後の東アジア～4. 元朝の成立</li> </ul> </li> <li>・11. 海域世界の発展と東南アジア <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 三つの海域世界の成立～2. 海と陸の結合</li> </ul> </li> <li>・12. 大交易時代 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. アジア交易世界の再編と活況～3. 大交易時代の世界</li> </ul> </li> <li>・13. ユーラシア諸帝国の繁栄 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. イランと中央アジアの繁栄～5. 清と東アジア世界</li> </ul> </li> <li>・14. 近世のヨーロッパ <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 主権国家群の形成と宗教改革～4. 近世ヨーロッパの社会と文化</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジアの改革運動</li> <li>・アフリカの分割と抵抗</li> <li>・インドの植民地化と民族運動</li> <li>・東南アジアの植民地化と民族運動・中華帝国の崩壊と中華民国の成立</li> <li>・アジアのナショナリズムの台頭</li> <li>・冷戦から多極的国際社会へ</li> <li>・グローバリゼーションと地球環境の危機</li> <li>・20世紀の文化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総復習及び大学入試問題演習</li> </ul>
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・地理的な内容との関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・地理的な内容との関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・地理的な内容との関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・地理的な内容との関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・地理的な内容との関連</li> </ul>
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
		夏期講習			大学入学共通テスト対策演習		

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な歴史知識が身につけている。</li> <li>・世界史の大きな流れをつかめている。</li> <li>・各地域間の比較、現代的諸課題との考察など歴史的思考力や多面的多角的な考察力が身につけている。</li> <li>・史資料を読解し、それらを活用して適切に歴史的事象を表現できる。</li> <li>・人権、民主主義、宗教的寛容などの形成過程や問題点を理解しながら、自文化・他文化を尊重できている。</li> </ul> <p>以上の観点を、定期考査を主な評価材料としながら、小テストや授業態度、提出物、出欠状況等を加味して総合的に評価する。</p>
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会事象について興味関心を抱くために、日常から新聞やニュースなどを見る習慣をつける。</li> <li>・授業前と授業後の予習復習で教科書を読む。その際、太字だけを暗記するのではなく、教科書を欄外まで含めて、歴史の流れを意識して丁寧に読み込む。</li> <li>・諸資料の読解を丁寧にやる。</li> <li>・受験する生徒は、その範囲の講義は2年間で1回しか聴けないことを肝に銘じ、授業を大切に、授業中に歴史の流れを理解する。</li> <li>・政治経済や地理など他の履修している地理歴史・公民科の勉強との関連を意識する。</li> </ul>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	特になし
--------------------------------	------

令和5年度(2023年度) 授業計画		教科名	科目名	世界史演習	年次	1年次	区分	必修選択	担当者名	横田成洋
		地理歴史	講座名	世界史演習	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	『世界史B 新訂版』実教出版
目標 (学習を通して身につける学力)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前近代における世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解する。</li> <li>・地理的条件や日本の歴史と関連づけながら歴史をとらえることができる。</li> <li>・諸資料を読解し、その成果を適切に表現できる。</li> <li>・世界各地の文化の多様性や複合性を多面的・多角的に考察できる。</li> <li>・現代世界の特質や課題を広い視野から考察できる。</li> <li>・上記を踏まえながら大学入試問題に対応できる学力を身につけている。</li> </ul>							副教材	『アカデミア世界史』 浜島書店 自作プリント

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18. 世界戦争の時代</li> <li>5. 世界恐慌と国際対立の激化</li> <li>6. 第二次世界大戦</li> <li>・19. 戦後世界秩序の形成</li> <li>1. 冷戦の形成と展開</li> <li>2. 植民地の独立と世界政治</li> <li>3. 東アジアの「熱い戦争」と経済発展</li> <li>4. 合衆国の覇権の動揺と再編</li> <li>・20. 情報革命と世界経済の一体化</li> <li>1. 情報革命とグローバル化</li> <li>2. 冷戦の終結と新たな世界秩序</li> <li>3. 21世紀の地球的課題と地域世界</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0. 文明以前の人類</li> <li>1. 人類の登場～2 地域文化の形成</li> <li>・1. オリент世界と東地中海世界</li> <li>1. オリент世界の成立～4 ヘレニズム世界</li> <li>・2. 地中海と西アジア</li> <li>1. 都市国家から世界帝国へ</li> <li>～4. 地中海世界と西アジア</li> <li>・3. 南アジア世界</li> <li>1. 南アジアにおける文明の成立と国家形成</li> <li>～2. インド世界の形成</li> <li>・4. 東アジア世界</li> <li>1. 東アジアにめばえた文明</li> <li>～3. 東宝の世界帝国</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5. 中央ユーラシア世界</li> <li>1. 騎馬遊牧民国家の興亡</li> <li>～2. 草原地帯のトルコ化とイスラーム化</li> <li>・6. 東南アジア世界</li> <li>1. 海の道の形成と東南アジア</li> <li>～2. 東南アジア諸国家の再編成</li> <li>・7. アフリカ、オセアニア、古アメリカの地域世界</li> <li>1. アフリカ ～ 3. 古アメリカ</li> <li>・8. イスラーム世界の形成</li> <li>1. イスラーム世界の成立</li> <li>～3. イスラーム文明</li> <li>・9. ヨーロッパ世界の形成</li> <li>1. 東ヨーロッパ世界～6. ルネサンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10. 東アジア世界の変容とモンゴル帝国</li> <li>1. 唐の崩壊後の東アジア</li> <li>～4. 元朝の成立</li> <li>・11. 海域世界の発展と東南アジア</li> <li>1. 三つの海域世界の成立</li> <li>～2. 海と陸の結合</li> <li>・12. 大交易時代</li> <li>1. アジア交易世界の再編と活況</li> <li>～3. 大交易時代の世界</li> <li>・13. ユーラシア諸帝国の繁栄</li> <li>1. イランと中央アジアの繁栄</li> <li>～5. 清と東アジア世界</li> <li>・14. 近世のヨーロッパ</li> <li>1. 主権国家群の形成と宗教改革</li> <li>～4. 近世ヨーロッパの社会と文化</li> </ul>	・総復習と大学入試問題演習
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な内容との関連もふまえ、各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・大学入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な内容との関連もふまえ、各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・大学入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な内容との関連もふまえ、各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・大学入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な内容との関連もふまえ、各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・大学入試問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的な内容との関連もふまえ、各地域の政治・社会・経済・文化の特質を理解し、その関連を考察</li> <li>・史資料を正確に読解し、成果を適切に表現</li> <li>・地域間や文明間の交流と相互の影響を理解</li> <li>・大学入試問題演習</li> </ul>
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
		夏期講習			大学入学共通テスト対策演習		

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎から応用までの歴史的知識を身につけている。</li> <li>・資史料を読解し、そこから情報を読み取り、適切に表現できている。</li> <li>・各時代、各地域の特質や関連を理解するなど、歴史の大きな流れを把握している。</li> <li>・歴史的・現代的な諸課題について考察し、意欲的に追求している。</li> <li>・上記を踏まえながら、大学入試に対応できる学力を身につけている。</li> </ul> <p>以上の点を、定期考査を主な評価材料としながら、出席状況・課題提出状況・授業態度などを加味して総合的に評価を行う。</p>
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の予習として当該箇所の教科書をしっかりと読み込み、用語集で用語を調べる。</li> <li>・復習として『ウィニングコンパス』を2回繰り返し、『センター世界史』で演習問題を自分で行う。理解が曖昧なところは、必ず教科書と資料集で確認する。いたずらに用語だけを覚えずに流れをしっかりと理解する。</li> <li>・宿題や課題として出す単元ごとの大学入試問題を解く。</li> <li>・過去問題を繰り返し解き、間違えた箇所を必ず訂正し、理解する。</li> </ul>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	特になし
--------------------------------	------

令和5年度(2023年度) 授業計画		教科名	科目名	地理B	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	宮澤達也
		地理歴史	講座名	地理B	単位数	4単位	形態		教科書	新詳地理B・新詳高等地図(ともに帝国書院)
目標 (学習を通して身につける学力)		1. テーマごとに世界を概観し、分布上の特色を把握し、その原因を考察することにより世界各地の地域の理解を深める。 2. 地形図の読図、統計資料の分析などの地理的技能を身につける。 3. おもに自然地理分野における諸現象のメカニズム理解に重点をおき、これをもとに地球上の諸現象の成り立ちを俯瞰する。 4. 現代世界をとらえる一つの切り口として、地理的なものの見方を身につける。 5. 論述問題の指導を通じて、1年次の学習内容を補充し、現代の世界像・地域像を構築する。							副教材	・地理統計(帝国書院) ・地理用語集(山川出版社) ・ウィニングコンパス地理の整理と演習(東京法令出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	・自然環境	・資源と産業 ・村落と都市 ・人種と民族	・人口 ・国家と国家群 ・地図と世界 ・環境問題	・国際化と情報化 ・世界の諸地域 ・日本の地域性 ・問題演習	・問題演習
指導項目	1.地形、気候、陸水海洋 2.日本の自然環境と防災 3.環境問題	1.各産業 2.食料問題 3.交通と通信 4.貿易と経済圏	1.人口問題 2.村落都市 3.都市問題 4.衣食住 5.民族と宗教 6.民族問題	1.国際化と情報化 2.世界の諸地域 3.日本の地域性 4.論述問題指導	・問題演習
補講講習	随時	随時	随時	随時	随時

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			任意の課題提出				任意の課題提出			

評価の観点 評価方法	1.地域の特色を理解する上で必要なかつ重要な分布図や統計などの資料を分析・理解できたか。 2.過去問などの演習を通じて、問題の解法が身についたか。 3.定期考査の素点、授業中の取り組みなどを総合的に評価する。 4.問題演習を通じて、論述力が身についたか。
---------------	--

日常の 学習方法	1.日常から地理的な事象について興味を持つこと。 2.教科書や資料集など自ら積極的に授業内容の箇所にマークやメモをしながら、自分独自のノートをつくる。 3.問題演習は、正解のみを暗記するのではなく、正解が導き出されるプロセスを理解する。 4.常にビジュアルとポジションを意識して地理的諸現象を考える。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	1.社会事象について興味関心を抱くために、日常から新聞やニュース番組などを見る習慣をつける。 2.公民科や他の歴史の学習との関連を意識する。
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	地理演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	宮澤達也
	地理歴史	講座名	地理演習	単位数	2単位	形態		教科書	新詳地理B・新詳高等地図(ともに帝国書院)
目標 (学習を通して身につける学力)	・問題演習を通じて、1年次の学習内容を深めるとともに、学習内容を補充し、現代の世界像や地域像を構築する。							副教材	・ウィニングコンパス地理の整理と演習(東京法令出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	・自然環境	・資源と産業 ・村落と都市 ・人種と民族	・人口 ・国家と国家群 ・地図と世界 ・環境問題	・国際化と情報化 ・世界の諸地域 ・日本の地域性	・総復習
指導項目	1.地形、気候、陸水海洋 2.日本の自然環境と防災 3.環境問題	1.各産業 2.食料問題 3.交通と通信 4.貿易と経済圏	1.人口問題 2.村落都市 3.都市問題 4.衣食住 5.民族と宗教 6.民族問題	1.国際化と情報化 2.世界の諸地域 3.日本の地域性 4.論述問題指導	・総復習
補講講習	随時	随時	随時	随時	随時

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			任意の課題提出				任意の課題提出			

評価の観点 評価方法	1.地域の特色を理解する上で必要なかつ重要な分布図や統計などの資料を分析・理解できたか。 2.過去問などの演習を通じて、問題の解法が身についたか。 3.定期考査の素点、授業中の取り組みなどを総合的に評価する。 4.問題演習を通じて、論述力が身についたか。
---------------	--

日常の 学習方法	1.日常から地理的な事象について興味を持つこと。 2.教科書や資料集など自ら積極的に授業内容の箇所にマークやメモをしながら、自分独自のノートをつくる。 3.問題演習は、正解のみを暗記するのではなく、正解が導き出されるプロセスを理解する。 4.常にビジュアルとポジションを意識して地理的諸現象を考える。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	1.社会事象について興味関心を抱くために、日常から新聞やニュース番組などを見る習慣をつける。 2.公民科や他の歴史の学習との関連を意識する。
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	日本史B	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	谷口 靖
	地理歴史	講座名	日本史B	単位数	4単位	形態	クラス単位	教科書	『詳説日本史B 改訂版』山川出版社
目標 (学習を通して身につける学力)	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることにより、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。							副教材	『最新日本史図表 五訂版』(第一学習社) 『最新詳説日本史史料集』(実教出版) 『ウイニングコンパス日本史の整理と演習2022』(東京法令出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの ・文化の始まり 日本列島と日本人 旧石器時代人の生活 縄文文化の成立 縄文人の生活と信仰 ・農耕社会の成立 弥生文化の成立 弥生人の生活 小国の分立 邪馬台国連合 ・古墳とヤマト政権 古墳の出現とヤマト政権 前期・中期の古墳 東アジア諸国との交渉 大陸文化の受容 古墳文化の変化 古墳時代の人びとの生活 古墳の終末 ヤマト政権と政治制度 第2章 律令国家の形成 ・飛鳥の朝廷 東アジアの動向とヤマト政権の発展 ・律令国家への道 大化改新 律令国家への道 大宝律令と官僚制 民衆の負担 ・平城京の時代 遣唐使 奈良の都平城京 地方官制と「辺境」 藤原氏の進出と政界の動揺 民衆と土地政策	・平安王朝の形成 平安遷都と蝦夷との戦い 平安時代初期の政治改革 地方と貴族社会の変貌 第3章 貴族政治と国風文化 ・藤原氏北家の発展 摂関政治 国際関係の変化 貴族の生活 ・地方政治の発展と武士 受領と負名 荘園の発達 地方の反乱と武士の成長 源氏の進出 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 ・院政と平氏の台頭 延久の荘園整理令と荘園公領制 院政の開始 院政期の社会 保元・平治の乱 平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 源平の争乱 鎌倉幕府 幕府と朝廷 ・武士の社会 北条氏の台頭 承久の乱 執権政治 武士の生活 武士の土地支配	・蒙古襲来と幕府の衰退 蒙古襲来 蒙古襲来後の政治 琉球とアイヌの動き 社会の変動 幕府の衰退 第5章 武家社会の成長 ・室町幕府の成立 鎌倉幕府の滅亡 建武の新政 南北朝の動乱 守護大名と国人一揆 室町幕府 東アジアとの交易 琉球と蝦夷ヶ島 ・幕府の衰退と庶民の台頭 惣村の形成 幕府の動揺と土一揆 応仁の乱と国一揆 農業の発達 商工業の発達 ・戦国大名の登場 戦国大名 戦国大名の分国支配 都市の発達と町衆 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 ・織豊政権 ヨーロッパ人の東アジア進出 南蛮貿易とキリスト教 織田信長の統一事業 豊臣秀吉の全国統一 検地と刀狩 秀吉の対外政策と朝鮮侵略	幕藩体制の成立 ・江戸幕府の成立 幕藩体制 幕府と藩の機構 天皇と朝廷 禁教と寺社 江戸時代初期の外交 鎖国政策 長崎貿易 朝鮮と琉球・蝦夷地 ・幕藩社会の構造 身分と社会 村と百姓 町と町人 農業 林業・漁業 手工業・鉱山業 商業 第7章 幕藩政治の展開 ・幕政の展開 平和と秩序の確立 元禄時代 正徳の政治 ・経済の発展 農業生産の進展 諸産業の発達 交通の整備と発達 貨幣と金融 三都の発展 商業の展開 第8章 幕藩体制の動揺 ・幕政の改革 享保の改革 社会の変容 一揆と打ちこわし 田沼時代 ・幕府の衰退と近代への道 寛政の改革 鎖国の動揺 文化・文政時代 天保の改革 経済の変化 朝廷と雄藩の浮上	日本史に関する総復習
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
		夏期休業期間中講習			冬期休業期間中講習		

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な歴史知識が身につけている。</li> <li>歴史の大きな流れをつかめている。</li> <li>近現代での各地域間の比較、現代的諸課題との考察など歴史的思考力や多面的多角的な考察力が身につけている。</li> <li>史資料を読解し、それらを活用して適切に歴史的事象を表現できる。</li> <li>人権、民主主義、宗教的寛容などの形成過程や問題点を理解しながら、自文化・他文化を尊重できている。</li> </ul> 以上の観点を、定期考査を主な評価材料としながら、小テストや授業態度、提出物、出欠状況等を加味して総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業前と授業後の予習復習で教科書を読む。その際、太字だけを暗記するのではなく、教科書を欄外まで含めて、歴史の流れを意識して丁寧に読み込む。</li> <li>実施される小テストをおろそかにせず、きちんと自分で復習をする。</li> <li>受験する生徒は、授業を大切に授業中に歴史の流れを理解する。</li> </ul>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会事象について興味関心を抱くために、日常から新聞やニュースなどを見る習慣をつける。</li> <li>世界史や地理、倫理など他の地理歴史・公民科の勉強との関連を意識する。</li> </ul>
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	日本史演習	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	谷口 靖
	地理歴史	講座名	日本史演習	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	『詳説日本史B 改訂版』山川出版社
目標 (学習を通して身につける学力)	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることにより、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。							副教材	『最新日本史図表 五訂版』(第一学習社) 『最新詳説日本史史料集』(実教出版) 『ウィニングコンパス日本史の整理と演習2022』(東京法令出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧石器時代人の生活</li> <li>縄文文化の成立 縄文人の生活と信仰</li> <li>弥生文化の成立 弥生人の生活</li> <li>古墳とヤマト政権 古墳の出現とヤマト政権 前期・中期の古墳 大陸文化の受容 古墳文化の変化 古墳時代の人びとの生活 古墳の終末</li> <li>飛鳥文化</li> <li>白鳳文化</li> <li>天平文化</li> <li>天平文化と大陸 国史編纂と『万葉集』 国家仏教の展開 天平の美術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弘仁貞観文化</li> <li>唐風文化と平安仏教 密教美術</li> <li>国風文化</li> <li>国文学の発達 浄土の信仰 国風美術 貴族の生活</li> <li>院政期の文化</li> <li>鎌倉文化</li> <li>鎌倉仏教 中世文学のおこり 芸術の新傾向</li> <li>室町文化</li> <li>南北朝文化 北山文化 東山文化 庶民文芸の流行 文化の地方普及 新仏教の発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>桃山文化</li> <li>桃山芸術 町衆の生活 南蛮文化</li> <li>寛永期の文化</li> <li>元禄文化</li> <li>元禄期の文学 儒学の興隆 諸学問の発達 元禄美術</li> <li>宝暦・天明期の文化</li> <li>洋学の始まり 国学の発達と尊王論 生活から生まれた思想 儒教教育と学校 文学と芸能 絵画</li> <li>化政文化</li> <li>学問・思想の動き 教育 文学 美術 民衆文学の成熟</li> <li>幕末の科学技術と文化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文明開化</li> <li>近代文化の発達</li> <li>明治の文化 思想と信教 教育の普及 科学の発達 ジャーナリズムと近代文学 明治の芸術 生活様式の近代化</li> <li>市民生活の変容と大衆文化</li> <li>都市化の進展と市民生活 大衆文化の誕生 学問と芸術</li> <li>戦時下の文化</li> <li>占領期の文化</li> </ul>	文化に関する総復習
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、社会、経済の特質</li> <li>地理的な理解</li> <li>史資料の読解</li> <li>他地域との交流</li> </ul>
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
		夏期休業期間中講習			冬期休業期間講習		

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な歴史知識が身につけている。</li> <li>歴史の大きな流れをつかめている。</li> <li>近現代での各地域間の比較、現代的諸課題との考察など歴史的思考力や多面的多角的な考察力が身につけている。</li> <li>史資料を読解し、それらを活用して適切に歴史的事象を表現できる。</li> <li>人権、民主主義、宗教的寛容などの形成過程や問題点を理解しながら、自文化・他文化を尊重できている。</li> </ul> 以上の観点を、定期考査を主な評価材料としながら、小テストや授業態度、提出物、出欠状況等を加味して総合的に評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業前と授業後の予習復習で教科書を読む。その際、太字だけを暗記するのではなく、教科書を欄外まで含めて、歴史の流れを意識して丁寧に読み込む。</li> <li>実施される小テストをおろそかにせず、きちんと自分で復習をする。</li> <li>受験する生徒は、授業を大切にし授業中に歴史の流れを理解する。</li> </ul>
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会事象について興味関心を抱くために、日常から新聞やニュースなどを見る習慣をつける。</li> <li>世界史や地理、倫理など他の地理歴史・公民科の勉強との関連を意識する。</li> </ul>
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	政治経済	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	飯島 博久 長谷川 聡 福崎 勇二
	公民	講座名	政治経済	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	『高校政治経済』実教出版
目標 (学習を通して身につける学力)	・政治経済に関する基本的な知識の習得を踏まえ、現代社会を生きる公民としての資質を培う。加えて共通テスト対策を行う。							副教材	『高校政治経済演習ノート』実教出版 『最新図説 政経』浜島書店

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	・民主政治の基本原 日本国憲法の基本性格	・日本の統治機構 現代日本の政治	・現代の国際政治 経済社会の変容	・現代経済のしくみ 現代経済と福祉の向上	・現代経済のしくみ 現代経済と福祉の向上
指導項目	・社会契約説・各国の政治制度 ・憲法の成立・人権と平和	・国会・内閣・裁判所・地方自治 ・政党と選挙制度	・国際法、国連とその課題、冷戦とポスト冷戦、国際政治の課題、資本主義の成立	・市場機構、国民所得、金融と財政、戦後経済史、日本経済の諸課題	・市場機構、国民所得、金融と財政、戦後経済史、日本経済の諸課題
補講講習	随時	随時	随時	随時	随時

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			夏期講習 国際経済				冬期講習 共通テスト問題演習			

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治経済の課題について、主体的に探究している。</li> <li>・政治経済の理論について、原理原則を踏まえた理解をしているとともに、時事的なテーマに対して興味関心を抱いている</li> <li>・政治経済の理論を踏まえて、現実の課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>・国際政治経済分野については、地球規模の視点に立って思考を広げている。</li> </ul>
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前と授業後の予習復習で教科書を読む。その際、太字だけを暗記するのではなく、教科書を欄外まで含めて、政治経済のを意識して丁寧に読み込む。</li> <li>・授業中に実施する課題探究学習に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・受験する生徒は、授業を大切にし授業を通して問題演習も進めていく。</li> </ul>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会事象について興味関心を抱くために、日常から新聞やニュースなどを見る習慣をつける。</li> <li>・世界史や日本史、地理など他の地理歴史の勉強との関連を意識する。</li> </ul>
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	政経演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	飯島博久
	公民	講座名	政経演習	単位数	2単位	形態	少人数	教科書	『高校政治経済』実教出版
目標 (学習を通して身につける学力)	・3年時の必修政治経済を基本として、政治経済経済分野の講義並びに問題演習を行う。また倫理の復習も行い、共通テスト「倫政」の対策も実施する。							副教材	ベストセクション『大学入試共通テスト政治経済』2024 実教出版 ベストセクション『大学入試共通テスト倫理』2024 実教出版

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	・現代の経済社会	・経済活動のあり方と福祉の向上	・日本思想	・西洋近代思想	
指導項目	・資本主義経済の成立・市場とその限界・国民所得・金融と財政	・戦後経済史・中小企業と農業・労働と社会保障・公害と環境保全・消費者問題	・古代日本の思想 仏教の流入 江戸期の思想 近代日本の思想	・ルネサンスと宗教改革 経験論と合理論 ドイツ観念論 社会主義思想 実存主義 現代西洋思想	
補講講習	随時	随時	随時	随時	

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			夏期講習 思想源流 国際経済				冬期講習 共通テスト問題演習			

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の課題について、主体的に探究している</li> <li>・政治経済的な事象について、原理原則を踏まえた理解をしているとともに、時事的なテーマに対して興味関心を抱いている。</li> <li>・倫理分野に対しては、自らの生き方・あり方を踏まえた思考を展開している。</li> <li>・国際政治経済分野については、地球規模の視点に立って思考を広げている。</li> </ul>
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前と授業後の予習復習で教科書を読む。その際、太字だけを暗記するのではなく、教科書を欄外まで含めて、思想の流れを意識して丁寧に読み込む。</li> <li>・実施される小テストをおろそかにせず、きちんと自分で復習をする。</li> <li>・受験する生徒は、授業を大切にし授業を通して問題演習も進めていく。</li> </ul>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会事象について興味関心を抱くために、日常から新聞やニュースなどを見る習慣をつける。</li> <li>・世界史や日本史、地理など他の地理歴史の勉強との関連を意識する。</li> </ul>
----------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	数学Ⅲ	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	升田 佳佑 松本 幸博
	数学	講座名	数学Ⅲ	単位数	6単位	形態	クラス単位	教科書	数学Ⅲ Advanced
目標 (学習を通して身につける学力)	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。							副教材	Focus Gold 数学Ⅲ 4th Edition Focus Goldノート 数学Ⅲ 4th Edition Vol.3,4 システム数学 練磨 数学Ⅲ 4th Edition 数学 理系問題

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	微分 微分の応用	積分 積分とその応用	式と曲線 総合問題演習	総合問題演習	総合問題演習
指導項目	基礎的な内容の復習、および標準問題の反復練習を行う。	基礎的な内容の復習、および標準問題の反復練習を行う。	発展的な内容の確認、および解答の論述を重視した発展問題の演習を行う。	発展的な内容の確認、および解答の論述を重視した発展問題の演習を行う。 大学入学共通テスト形式による問題演習を行う。	発展的な内容の確認、および解答の論述を重視した発展問題の演習を行う。 大学入学共通テスト形式による問題演習を行う。
補講 講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	1学期中間考査	1学期期末考査	夏期講習		2学期中間考査	学年末考査				
	関数の極限 式と曲線 微分 微分の応用	微分の応用 積分とその応用		式と曲線 総合問題	総合問題					

評価の観点 評価方法	中間・期末考査・小テストなどを主として評価をするが、日常の授業での演習問題の実施状況や課題をきちんと提出したかなども考慮する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業 教科書を利用した講義と演習を行う。  ②家庭学習 授業の予習・復習を主とし、教科書傍用問題集や参考書などの類題を日々解いていくことが必要。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	大学入試を理系科目で受験する者のほとんどが「数学Ⅲ」が必修であることから、入試では、微分・積分の融合問題が出題される傾向であることから早い時期に教科書の内容を終えて、融合問題に対応できる学習をしなければなりません。早いペースに対応できるように、予習・復習を怠らず教科書と問題集を確実にマスターしてください。特に、教科書傍用の問題集は、受験に必要な最低限の内容で構成されています。 なお、個々の進捗や能力に応じて丁寧に指導し、苦手意識を持つことがないように配慮します。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	数学特講	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	松本幸博 角田玲奈 中根聖司
	数学	講座名	数学特講	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	数学I、数学A、数学II、数学B advanced (東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	数学I・A分野の基本的な概念や原理について復習し、基本問題の反復練習によって基礎を固める。さらに、問題演習を重ねることで応用問題の解決能力を高め、大学入学共通テスト形式の問題に対応できる能力を身に付けさせる。							副教材	共通テスト対策 実力養成 重要問題演習 数学

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	数学I A I B全範囲 共通テスト対策				
指導項目					
補講 講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	1学期中間考査	1学期期末考査			2学期中間考査	学年末考査				
	数学I A I B全範囲	数学I A I B全範囲	夏期講習	上下左右中央揃えに統一する	数学I A全範囲	数学I A全範囲				

評価の観点 評価方法	中間・期末考査・小テストなどを主として評価をするが、日常の授業での演習問題の実施状況や課題をきちんと提出したかなども考慮する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業 問題集などを利用した講義と演習を行う。  ②家庭学習 授業の予習・復習を主とし、問題集や参考書などの類題を日々解いていくことが必要。
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	大学入学共通テストの対策は、基本事項をしっかりと理解し、計算力を付けておくことが大切である。問題を解く力と同時に計算力が合否の鍵を握る。単に問題が表面的にわかるというだけでなく、問題の誘導に従い、実際に計算をして確実に結果を出すところまで解くようにすることが必要である。なお、個々の進捗や能力に応じて丁寧に指導し、苦手意識を持つことがないように配慮する。
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	数学 I II AB	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	升田 佳佑 坂本 太一 寺島 求
	数学	講座名	数学総合演習	単位数	2単位	形態	習熟度別	教科書	改訂版 数学 I 数学A数学II 数学B(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	1、2年次で学習した数学 I・A・II・Bの内容を発展させ、大学進学に向けて数学の応用力育成を目指す。							副教材	システム数学入試必修問題集 実践 難関国公立大学編 4th Edition 数学 I・II・A・B (啓林館)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	数学 I A II B全範囲	数学 I A II B全範囲	数学 I A II B全範囲	数学 I A II B全範囲	数学 I A II B全範囲
指導項目	標準的な内容や応用問題の演習を行う。	標準的な内容や応用問題の演習を行う。	志望校に応じた問題演習を行う。	志望校に応じた問題演習を行う。	志望校に応じた問題演習を行う。
補講 講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	1学期中間考査	1学期期末考査	夏期講習		2学期中間考査	学年末考査				
	数学 I A II B全範囲	数学 I A II B全範囲			数学 I A II B全範囲	数学 I A II B全範囲				

評価の観点 評価方法	数学 I・II・A・Bの基礎的学力のみならず、大学入試に対応するレベルまでの学力と努力をみる定期テスト等で総合的に評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業 問題集などを利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の予習・復習を主とし、問題集や参考書などの類題を日々解いていくことが必要。
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	大学入試問題に対応する応用力育成が主眼となるため、十分な予習復習が前提となる。指定された問題を解き、自分で他人にわかるように説明することによってその問題の解法の理解を深める。参考書等を活用して、自ら調べて考える姿勢を養う。なお、個々の進度や能力に応じて丁寧に指導し、苦手意識を持つことがないように配慮する。
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	理系数学演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	日比野 智子 , 松本 葉子
	数学	講座名	理系数学演習	単位数	2単位	形態	少人数	教科書	数学 I 数学A 数学II 数学B Advanced(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	1、2年次で学習した数学 I・A・II・Bの内容を発展させ、大学進学に向けて数学の応用力育成を目指す。							副教材	システム数学入試必修問題集 練磨 国公立大学編 4th Edition 数学 I・II・A・B 啓林館

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	・数と式・論理 ・関数と方程式 ・場合の数と確率 を中心に数学 I A I I B全範囲	・場合の数と確率 ・数列 ・ベクトル を中心に数学 I A I I B全範囲	・図形と方程式 ・三角比・三角関数 ・指数・対数関数 を中心に数学 I A I I B全範囲	数学 I A I I B全範囲	数学 I A I I B全範囲
指導項目	基礎的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。	基礎的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。	応用的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。	応用的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。 大学入学共通テスト形式の問題演習を行う。	応用的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。 大学入学共通テスト形式の問題演習を行う。
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	1学期中間考査	1学期期末考査	夏期講習		2学期中間考査	学年末考査				
	数学 I A I I B全範囲	数学 I A I I B全範囲			数学 I A I I B全範囲	数学 I A I I B全範囲				

評価の観点 評価方法	数学 I・II・A・Bの基礎的学力のみならず、大学入試に対応するレベルまでの学力と努力をみる定期テスト等で総合的に評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業 問題集などを利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の予習・復習を主とし、問題集や参考書などの類題を日々解いていくことが必要。
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	大学入試問題に対応する応用力育成が主眼となるため、十分な予習復習が前提となる。指定された問題を解き、自分で他人にわかるように説明することによってその問題の解法の理解を深める。参考書等を活用して、自ら調べて考える姿勢を養う。なお、個々の進捗や能力に応じて丁寧に指導し、苦手意識を持つことがないように配慮する。
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	文系数学	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	日比野 智子, 富重 文孝
	数学	講座名	文系数学	単位数	2単位	形態	少人数	教科書	数学 I 数学A 数学II 数学B Advanced(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	数学 I・A・II・B分野の基本的な概念や原理について復習し、基本問題の反復練習によって基礎を固める。さらに、問題演習を重ねることで応用問題の解決能力を高め、大学入学共通テスト、難関国公立大学の二次試験や難関私立大学の数学入試問題に対応できる能力を身に付けさせる。							副教材	参考書「Focus Gold 数学II+B」(啓林館) 入試必修問題集「練磨」数学 I II AB(啓林館)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数と方程式</li> <li>整数の性質</li> <li>場合の数と確率</li> </ul> を中心に数学 I A II B全範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角比・三角関数</li> <li>指数関数・対数関数</li> <li>ベクトル</li> <li>数列</li> <li>図形の性質</li> </ul> を中心に数学 I A II B全範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形と式</li> <li>式と証明</li> <li>微分法</li> <li>積分法</li> <li>データの分析</li> <li>数と式</li> <li>図形の性質</li> </ul> を中心に数学 I A II B全範囲	数学 I A II B全範囲 共通テスト対策	数学 I A II B全範囲 共通テスト・二次対策
指導項目	基礎的な内容の復習，基本問題から応用問題への反復練習を行う。	基礎的な内容の復習，基本問題から応用問題への反復練習を行う。	基礎的な内容の復習，基本問題から応用問題への反復練習を行う。	共通テスト対策を含め，実践問題演習を行う。	実践問題演習を行う。
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	1学期中間考査	1学期期末考査			2学期中間考査	2学期期末考査				
	上記授業範囲を中心に 数学 I A II B全範囲	上記授業範囲を中心に 数学 I A II B全範囲			上記授業範囲を中心に 数学 I A II B全範囲	上記授業範囲を中心に 数学 I A II B全範囲				

評価の観点 評価方法	中間・期末考査・小テストなどを主として評価をするが、日常の授業での演習問題の実施状況や課題をきちんと提出したかなども考慮する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業 問題集などを利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の予習・復習を主とし、問題集や参考書などの類題を日々解いていくことが必要。
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	数学 I II 演習	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	角田 玲奈
	数学	講座名	数 I AII B	単位数	4単位	形態	少人数	教科書	数学 I 数学A 数学II 数学B Advanced(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	数学 I・A・II・B分野の基本的な概念や原理について復習し、問題演習を重ねることで応用問題の解決能力を高め難関国公立大学の二次試験に対応できる能力を身に付けさせる。							副教材	システム数学入試必修問題集 練磨 国公立大学編 4th Edition 数学 I・II・A・B 啓林館

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	数学 I AII B全範囲				
指導項目	基礎的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。	基礎的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。	応用的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。	応用的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。	応用的な内容の復習、および基本問題の反復練習を行う。 大学入学共通テスト形式の問題演習を行う。
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	1学期中間考査	1学期期末考査	夏期講習		2学期中間考査	学年末考査				
	数学 I AII B全範囲	数学 I AII B全範囲			数学 I AII B全範囲	数学 I AII B全範囲				

評価の観点 評価方法	中間・期末考査・小テストなどを主として評価をするが、日常の授業での演習問題の実施状況や課題をきちんと提出したかなども考慮する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業 問題集などを利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の予習・復習を主とし、問題集や参考書などの類題を日々解いていくことが必要。
-------------	--

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	難関大学の入学試験に向けて、基本事項を確実に理解するとともに、解答に至るまでの論拠を正確に記述する力を養う必要がある。したがって、演習問題は必ず予習をし、自らの考えを記述した上で授業に臨むこと。課題は必ず提出すること。 また、基本的な知識・技能を確実に習得していることを確認するため、随時小テストを行う。 個々の進度や能力に応じて丁寧に指導し、苦手意識を持つことがないように配慮する。
--------------------------------	--

令和3年度(2021年度) 授業計画	教科名	科目名	物理	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	安藤・竹内・小室
	理科	講座名	物理	単位数	5単位	形態	クラス単位	教科書	高等学校 総合物理1・2(数研出版)
目標 (学習を通して身につける学力)	自然界の現象や身の回りの仕組みや原理について深く考える姿勢と知識を養う							副教材	センサー総合物理 WINSTEP物理 物理必修問題集

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	力学 熱力学	電磁気学	電磁気学	原子物理学	総合演習
指導項目	運動量と力積の関係 等速円運動の世界 周期的運動を解析する天体の運行 圧力を分子運動で論じる	電場・電位・磁場 電磁電場・電磁誘導 直流回路	交流	原子	全範囲
補講 講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	定期考査や実験レポート、小テストなどで総合的に評価する。
---------------	------------------------------

日常の 学習方法	基礎事項(理論)の定着をプリントや演習問題などを通して図る。 実験(思考実験)や観察を通して身の回りの事象に興味関心を持たせる。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	化学	年次	3年次	区分		担当者名	川原井 康夫 松本 隆行
	理科	講座名	化学	単位数	5単位	形態		教科書	化学 新訂版(実教出版)
目標 (学習を通して身につける学力)	化学的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学的な基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。							副教材	セミナー化学基礎・化学(第一学習社) 化学重要問題集(教研出版) ニューステージ化学図表(浜島書店)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >	
授業内容	第1編 物質の状態と平衡 1章 物質の状態 1. 物質の三態 2. 気体・液体間の状態変化 2章 気体の性質 1. 気体 2. 気体の状態方程式 3章 液体の性質 1. 溶解 2. 希薄溶液の性質 3. コロイド 4章 固体の構造 1. 結晶 2. 金属結晶の構造 3. イオン結晶の構造 4. そのほかの結晶と非晶質 第2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1. 反応熱と熱化学方程式 2. ヘスの法則 3. 化学反応と光 第3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 1. 反応の速さ 2. 反応の速さを決める条件 3. 反応のしくみ	第3編 化学反応の速さと平衡 2章 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡の移動 3章 水溶液中の化学平衡 1. 電離平衡 第5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素 1. 飽和炭化水素 2. 不飽和炭化水素 3章 酸素を含む有機化合物 1. アルコールとエーテル 2. アルデヒドとケトン 3. カルボン酸とエステル 4. 油脂とセッケン	第5編 有機化合物 4章 芳香族化合物 1. 芳香族炭化水素 2. 酸素を含む芳香族化合物 3. 窒素を含む芳香族化合物 4. 芳香族化合物の分離 5章 有機化合物と人間生活 1. 食品 2. 医薬品 3. 染料 4. 洗剤 第6編 高分子化合物 1章 高分子化合物 2章 天然高分子化合物 1. 単糖類・二糖類 2. 多糖類 3. アミノ酸 4. タンパク質 5. 核酸 3章 合成高分子化合物 1. 合成繊維 2. プラスチック 3. ゴム 4章 高分子化合物と人間生活 1. プラスチック利用の拡大と環境問題	共通テスト演習 二次試験対策演習 3章 典型元素の単体と化合物 1. アルカリ金属とその化合物 2. 2族元素とその化合物 3. 1, 2族以外の典型元素とその化合物 4章 遷移元素の単体とその化合物 1. 遷移元素とその化合物 2. 金属イオンの分離と確認 4章 遷移元素の単体と化合物 1. 遷移元素とその化合物 2. 金属イオンの分離・確認 5章 無機物質と人間生活 1. 金属 2. セラミックス	共通テスト演習 二次試験対策演習	
指導項目	<input type="checkbox"/> 気体の性質について理解し、法則を活用した計算を正しくできるようになる。 <input type="checkbox"/> (水)溶液の性質について正しく理解する。 <input type="checkbox"/> 熱化学方程式について正しく理解し、熱量の計算ができるようになる。 <input type="checkbox"/> 化学反応の速さについて、計算できるようにする。	<input type="checkbox"/> 化学平衡について、正しく理解し、いろいろな変化に関して平衡の移動を答えることができる。また、平衡の計算ができるようになる。 <input type="checkbox"/> 脂肪族化合物の基本的な性質、反応を理解する。	<input type="checkbox"/> 芳香族化合物の基本的な性質、反応を理解する。 <input type="checkbox"/> 高分子化合物の基本的な性質、反応を理解する。	<input type="checkbox"/> 高等学校で学んだ化学基礎及び化学に関する総まとめを行う。 <input type="checkbox"/> いままで学んできたことが定着しているか確認し、身の回りの現象がどのような化学の事象なのかを理解できるように努める。		
補講講習						

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
		夏期講習					

評価の観点 評価方法	<p>考査では、標準的な難易度の問題を出題し、内容をきちんと理解し定着していること、問題の意味を理解し、適切な解答が答えられることを確認する。</p> <p>課題を定期的に回収するので、考査に不安を感じるものは必ず取り組むこと。</p> <p>実験のレポートを考査を含め、充実させること。</p>
---------------	--

日常の 学習方法	<p>理論化学は基本をきちんと理解、習得することが大切である。問題集の問題を解き、定着させる。</p> <p>有機物質の構造をしっかりと理解することで、その物性なども予想できるようになるまで基本をきちんと定着させることが大切である。問題において、いろいろな物性から物質を特定できるように考察できるようになること。</p> <p>授業の進度は非常に早い。授業後の課題を指定しているので、解いて授業内容の定着をはかること。</p> <p>問題集は1冊を決め、繰り返し解く事が必要である。セミナーまたは重要問題集のいずれか、自分の志望校に合わせて選び、解けない問題が無くなるまで取り組むこと。</p>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<p>2学期の後半から、教科書の発展的内容や、共通テスト対策、入試問題演習に取り組んでいく。また、模擬試験等の結果をみて、無機化学の復習を行うことも検討している。</p>
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	化学基礎演習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	岡野郁夫 野田徹
	理科	講座名	化学基礎演習	単位数	2単位	形態	少人数	教科書	化学基礎新訂版(実教出版)
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文系国公立大受験に必要な化学基礎の学力を身につけさせる</li> <li>・問題演習を繰り返すことで入試に必要な解答力を育成する</li> <li>・大学入学共通テスト化学基礎得点率8割越えを目指す</li> </ul>							副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023 大学入学共通テスト対策 つかむ化学基礎(浜島書店)</li> <li>・クミ探+ 化学基礎(啓林館)</li> </ul>

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にある基本事項の説明と要点の確認を行う</li> <li>・副教材を使用して問題演習を行わせる</li> <li>・問題解説を行い、解法の手順を習得させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にある基本事項の説明と要点の確認を行う</li> <li>・副教材を使用して問題演習を行わせる</li> <li>・問題解説を行い、解法の手順を習得させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にある基本事項の説明と要点の確認を行う</li> <li>・副教材を使用して問題演習を行わせる</li> <li>・問題解説を行い、解法の手順を習得させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬問題集を用いて実践力を身につけさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬問題集を用いて実践力を身につけさせる</li> </ul>
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合物の分離</li> <li>・物質を構成する粒子</li> <li>・化学結合</li> <li>・原子量、分子量、式量</li> <li>・物質質量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学反応式と量関係</li> <li>・酸と塩基</li> <li>・水溶液の水素イオン濃度とpH</li> <li>・中和反応式と量関係</li> <li>・和滴定と塩の性質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸化と還元</li> <li>・酸化剤還元剤の反応</li> <li>・酸化還元反応の量的関係</li> <li>・金属のイオン化傾向</li> <li>・電池</li> <li>・金属の製錬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テスト模擬問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テスト模擬問題演習</li> </ul>
補講 講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習意欲、定期考査、課題提出により総合的な評価を行う</li> <li>・ 大学入学共通テスト模擬問題等を解かせ、その得点率を評価の参考とする</li> </ul>
---------------	---

日常の 学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を用いて単元ごとに基本重要項目を確認し、副教材に取り組みさせることで演習力を向上させていく</li> <li>・問題演習中心の授業を行う。生徒の取り組み状況や発問によって、苦手事項の確認を行うとともに、分かりやすい解説を施すことで理解を深めさせていく</li> <li>・理解が不十分な点については、必ず教科書で確認させるとともに、ポイントになる事項を強調指摘していくようにする</li> </ul>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量関係問題、グラフ、図表などを用いて、情報処理能力を養い問題解決力の向上を目指す</li> <li>・生活と化学に関する分野の学習から、身の回りの物質がいかに人間生活を豊かにしているかを理解させていく</li> </ul>
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	生物	年次	3年次	区分	必修選択	担当者名	天海 創
		講座名	生物	単位数	5単位	形態	クラス単位	教科書	改訂 高等学校 生物 (第一学習社)
目標 (学習を通して身につける学力)	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成することが、この科目全体を通しての目標である。具体的な目標は以下の通りである。 1. 生命現象を遺伝子とタンパク質で考え表現できるようになる。 2. 生物の進化を、突然変異・自然選択・遺伝的浮動で考え、表現できるようになる。 3. 生物の個体群と生物群集及び生態系について、その構造や変化のしくみを理解し、生態系のバランスや生物多様性の保全の意義について、自らの考えを述べられるようになる。							副教材	セミナー生物基礎+生物 (第一学習社) 十訂版 最新図説生物neo (第一学習社)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	1. 生命現象と物質 ・細胞と分子(細胞の構造と機能、様々なタンパク質のはたらき) ・代謝(光合成、窒素同化、呼吸、発酵)	1. 生命現象と物質 ・遺伝情報の発現(複製・転写・翻訳と転写調節の分子システム)	2. 生殖と発生 ・減数分裂と有性生殖 ・動物と植物の発生 3. 生物の環境応答 ・植物における刺激の受容と応答 ・動物における刺激の受容と応答 ・動物の行動	4. 生態と環境 ・同種個体群内の相互作用 ・異種個体群間の相互作用 ・生態系の物質生産 ・生物多様性とその保全 5. 生物の進化と系統 ・進化のしくみ ・生物の変遷 ・生物の系統と分類	共通テスト対策演習
指導項目	原核細胞と真核細胞の構造と機能について、共通性と多様性という視点をもって理解させる。適宜観察を行い、探究的に学習し、理解を深めることができるように指導する。呼吸と光合成は共にATP生成システムであることが理解できるように指導する。	セントラルドグマのしくみを、資料のデータや形質転換実験を通して、探究的に学習し、理解を深めることができるように指導する。	生殖と発生及び、生物の環境応答について、資料のデータや観察を通して、探究的に学習し、理解を深めることができるように指導する。	生態と環境、及び生物の進化と系統について、資料のデータや観察を通して、探究的に学習し、理解を深めることができるように指導する。	
補講講習	個別の質問対応をオンラインで行う。	個別の質問対応をオンラインで行う。	個別の質問対応をオンラインで行う。	個別の質問対応をオンラインで行う。	個別の質問対応をオンラインで行う。

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
		生物基礎分野及び遺伝の問題に関する解法を、夏期講習で実施する。					

評価の観点 評価方法	テストや提出物などの合計点で評価する。 思考・判断・表現と知識・理解に関しては、定期考査によって評価する。 観察・実験の技能については、観察・実験中の目的達成状況で評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	授業終了直後に短時間の要点確認を行い、定期的に自学用のノート作成を行うことを推奨する。小単元終了ごとに、「セミナー生物基礎+生物」を解き、定期考査前にはできなかった問題を重点的に復習するようにすることが理想である。授業は国公立大学入試対応レベルで行うので、予習したことで授業がつまらなくなることはない。よって、事前に教科書を読んでから授業を受けることも検討して欲しい。
-------------	--

履修上の注意 (発展的な科目との関連)	本科目が生物基礎に対する発展的な科目になるので、履修上の留意点はないが、生物基礎での学習内容が身につけていることを前提とした科目であることをふまえてほしい。
------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	生物基礎	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	天海 創
	理科	講座名	生物基礎演習	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	生物基礎改訂版(啓林館)
目標 (学習を通して身につける学力)	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養うことを問題演習を通して行い、共通テストで問われている学力を身につける。							副教材	セミナー生物基礎+生物 (第一学習社) 十訂版 最新図説生物neo (第一学習社)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	単語レベルでの知識・理解の定着	頻出問題の演習による、思考力の育成	様々なタイプの演習問題の実施	本番を想定した演習問題の実施	共通テスト対策演習
指導項目	2年次の生物基礎の授業における要点の復習と単元ごとのセンター試験及び共通テストの過去問演習を行う。	2年次の生物基礎の授業における要点の復習と単元ごとのセンター試験及び共通テストの過去問演習を行う。	2年次の生物基礎の授業における要点の復習と単元ごとのセンター試験及び共通テストの過去問演習を行う。	2年次の生物基礎の授業における要点の復習と単元ごとのセンター試験及び共通テストの過去問演習を行う。	
補講講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			個別の質問対応をオンラインで行う。				個別の質問対応をオンラインで行う。			

評価の観点 評価方法	テストや提出物などの合計点で評価する。 思考・判断・表現と知識・理解に関しては、定期考査によって評価する。 観察・実験の技能については、観察・実験中の目的達成状況で評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	夏期休業前までに自家用のノート作成を完成させることを推奨する。 「セミナー生物基礎+生物」などを用いて、単語の定着→思考力の育成→様々なタイプの問題の演習→総合問題への取り組みと進んでいくようにしていきたい。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	本科目が生物基礎に対する発展的な科目になるので、履修上の留意点はないが、生物基礎での学習内容が身につけていることを前提とした科目であることをふまえてほしい。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	体育	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	木原 奎吾, 佐藤 拓, 田久保 裕之, 長井 正徳, 長谷川 正一郎, 米原 紗那
	保健体育	講座名	体育	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)
目標 (学習を通して身につける学力)	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。							副教材	

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	体育理論 体づくり運動 球技【ゴール型:サッカー、バスケボール】 球技【ネット型:テニス、卓球、バレーボール、バドミントン】 球技【ベースボール型:ソフトボール】 ＊球技は全て種目選択制  体育理論では「する、みる、支える、知る」といった豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。 体づくり運動では目的に適した運動の計画を立て取り組む。 球技ではゴール型、ネット型、ベースボール型それぞれにおいて共通する動きを身につける。 武道では柔道において簡易な試合で攻防を展開することができるようにする。	体育理論 体力テスト 体づくり運動 水泳【100m個人メドレー】  体育理論では、「する、みる、支える、知る」といった豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。 体づくり運動では目的に適した運動の計画を立て取り組む。 水泳では四泳法の身体の使い方、呼吸のタイミングなどを保ち、速く泳ぐことができるように効率的に泳法を身につける。	体育理論 体づくり運動 球技【ゴール型:サッカー、バスケボール】 球技【ネット型:テニス、卓球、バレーボール、バドミントン】 球技【ベースボール型:ソフトボール】 ＊球技は全て種目選択制 水泳【100m個人メドレー】  体育理論では「する、みる、支える、知る」といった豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。 体づくり運動では目的に適した運動の計画を立て取り組む。 球技ではゴール型、ネット型、ベースボール型それぞれにおいて共通する動きを身につける。 水泳では四泳法の身体の使い方、呼吸のタイミングなどを保ち、速く泳ぐことができるように効率的に泳法を身につける。	体育理論 体づくり運動 球技【ゴール型:サッカー、バスケボール】 球技【ネット型:テニス、卓球、バレーボール、バドミントン】 球技【ベースボール型:ソフトボール】 ＊球技は全て種目選択制  体育理論では「する、みる、支える、知る」といった豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。 体づくり運動では目的に適した運動の計画を立て取り組む。 球技ではゴール型、ネット型それぞれにおいて共通する動きを身につける。	体育理論 体づくり運動 球技【ゴール型:サッカー、バスケボール】 球技【ネット型:テニス、卓球、バレーボール、バドミントン】 球技【ベースボール型:ソフトボール】 ＊球技は全て種目選択制  体育理論では「する、みる、支える、知る」といった豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。 体づくり運動では目的に適した運動の計画を立て取り組む。 球技ではゴール型、ネット型それぞれにおいて共通する動きを身につける。
指導項目	オリエンテーションにおいて資料・説明で学習の流れを知り、学び方・技能の実態・習得方法など、グループで計画できるようにする。基本技能を習得し、自分の動き、仲間の動きに対して教え合いながら学習できるようにする。	水泳の特性を理解し、安全面に関する注意事項を理解する。自己の目標を設定することで、課題解決のための工夫を行い意欲的に取り組み成果を上げる。遠泳に適した泳ぎを身につける。	種目の特性を理解し、安全面に対する注意事項を理解する。学習の流れを知り、学び方・技能の実態・習得方法などグループ学習を通して、自分の動き・仲間の動きに対して教え合い、話し合いができるようにする。習得した技能を活かし、試合に応用する。また、試合を企画運営できるようにする。	種目の特性を理解し、安全面に対する注意事項を理解する。学習の流れを知り、学び方・技能の実態・習得方法などグループ学習を通して、自分の動き・仲間の動きに対して教え合い、話し合いができるようにする。習得した技能を活かし、試合に応用する。また、試合を企画運営できるようにする。	種目の特性を理解し、安全面に対する注意事項を理解する。学習の流れを知り、学び方・技能の実態・習得方法などグループ学習を通して、自分の動き・仲間の動きに対して教え合い、話し合いができるようにする。習得した技能を活かし、試合に応用する。また、試合を企画運営できるようにする。
補講講習	スキルテスト	スキルテスト	計測・スキルテスト	スキルテスト	スキルテスト

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲	冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲

評価の観点 評価方法	知識・技能 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び目的に応じた技能を身に付けている。 思考・判断・表現 生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫し、それらを表現するとともに、健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。 主体的に学習に取り組む態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。  ＊授業担当者が観察や技能テスト等により、総合的に評価。
---------------	---

日常の 学習方法	教員の指導のもと、技能や個人やチームで考えたことなどを学習ノート等に記録し、振り返りを行うことで進歩の状況を確認しながら単元を進める。また、自分や仲間の課題を発見し、課題解決の課程を踏まえて思考し判断したことを、根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や文章及び動作などで表したり、他者にわかりやすく伝えたりする。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	①動きやすい服装、体育にふさわしい服装をしてくること。 ②ピアス、ネックレス、指輪などの装飾品は外しておくこと。 ③爪が伸びている者は切っておくこと。 ④頭髪については、髪が邪魔にならないように結ぶ、束ねるなど配慮すること。 ⑤体調管理を各自すること(睡眠、水分補給、運動への順化等)。 ⑥人数把握のため合図があったら速やかに整列すること。 ⑦集合したら話を聞く姿勢をつくること。時間を守ること。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	美術基礎実習	年次	3年次	区分	自由選択	担当者名	森 文典
	芸術	講座名	美術基礎実習	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	高校生の美術1(日本文教出版)
目標 (学習を通して身につける学力)	美術の多様な創造活動を通して、幅広く文化を尊重する態度を養い、新たな文化の創造の担い手の育成を目指す。							副教材	なし

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	静物デッサン 水墨画模写	水墨画模写 建物を描く	西洋美術論	平面構成	平面構成
指導項目	・美術の基礎力である素描力を身につける。 ・模写することにより、西洋絵画との比較を行い日本画の基礎を理解する。	・水墨画(日本画)の模写を制作し、表現方法を身につける。	・ルネサンス以前からの作品を通じて美術史の変遷を学び、作品制作を行う。	・色彩を用いての空間表現を学び、作品制作を行う。	・色彩を用いての空間表現を学び、作品制作を行う。
補講講習	授業内に作品未完成なものに対して行う。	授業内に作品未完成なものに対して行う。	授業内に作品未完成なものに対して行う。	授業内に作品未完成なものに対して行う。	授業内に作品未完成なものに対して行う。

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造することの意義を考え、手法を身につける</li> <li>・自己の表現を追求するとともに、他者の表現に目を向けそれを尊重すること</li> <li>・高度な表現力を身につけるために、各自努力すること</li> </ul>
---------------	--

日常の 学習方法	<p>美術Ⅰにおいては、平面の表現を中心に制作を行う。 美術Ⅱでは、応用的な平面の表現や立体表現の基礎を学習する。 美術基礎実習では、発展的で多様な表現力の向上を目指す。</p>
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	<p>美術Ⅰにおいては、平面の表現を中心に制作を行う。 美術Ⅱでは、応用的な平面の表現や立体表現の基礎を学習する。 美術基礎実習では、発展的で多様な表現力の向上を目指す。</p>
--------------------------------	---

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	杉山・村上・吉川・中川
	外国語	講座名	コミュニケーション英語Ⅲα	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	Skillful English Communication Ⅲ(啓林館)
目標 (学習を通して身につける学力)	1. 4技能をバランスよく使いこなせるようにする。 2. 辞書、参考書を使いこなし、まとまった英文を自分の力で読解する能力を高める。 3. 正しい発音を習得し、語彙を増やし、英語を聞き取って情報や話し手の意向を理解できる力、又、自分の考えや伝えたいことを英語で話したり書いたりして表現できる力を養う。 4. 言語活動の土台となる文法事項を正しく理解し使いこなせるようにする。							副教材	・Cutting Edge Orange (エミル出版) ・Cutting Edge Black (エミル出版) ・速読英単語 上級編 (Z会)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	【読解】 Cutting Edge Orange  Chapter 2 健康「ジョギング」 Chapter 3 物語「ああ、私のクッキーが」 Chapter 4 言語「言語の変化」  【単語】 速読英単語 上級編 13-24	【読解】 Cutting Edge Orange  Chapter 5 科学・人体「視覚」 Chapter 6 環境「温暖化の証明」 Chapter 7 宇宙「幸運な惑星」 Chapter 8 IT「検索エンジンと記憶」  【単語】 速読英単語 上級編 25-36	【読解】 Cutting Edge Orange Chapter 9 動物「科学界とチンパンジー社会」 Chapter 10 時事・政治「リバタリアン・バターナリズム」 Chapter 11 科学・人体「COVID-19と行動変容」 Chapter 12 AI・IT「AIと機械学習」  【単語】 速読英単語 上級編 37-48	【読解】 Cutting Black	共通テスト対策演習 Reading / Listening
指導項目	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム
補講講習	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			夏期講習実施				個別添削指導実施		1月13日/14日	
実施しない	単語・文法 長文読解・リスニング  記述式模試	単語・文法 長文読解・リスニング  マーク式模試		実施しない	単語・文法 長文読解・リスニング  記述式模試	単語・文法 長文読解・リスニング  マーク式模試		実施しない	共通テスト本番	

評価の観点 評価方法	定期考査、小テストに加えて、提出物、予習状況や授業中の姿勢やノートの作成などさまざまな観点から総合的に判断する。
---------------	--

日常の 学習方法	※別紙参照。授業担当者の指示に従うこと。
-------------	----------------------

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	英文の概要を把握するような読解ストラテジーを身に付けるよう予習や課題に取り組むこと。理解した英文は活用できるように音読トレーニングやパターンプラクティスを行うこと。一方で、難解な英文を正確に理解したり、詳細な情報を英文から得たりするために必要な文法や文構造の知識を身に付けるようにすること。必ず音声を活用して4技能が総合的に伸びるよう学習する。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	村上・杉山・宇田川
	外国語	講座名	コミュニケーション英語Ⅲβ	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	Skillful English Communication Ⅲ (啓林館)
目標 (学習を通して身につける学力)	1. 4技能をバランスよく使いこなせるようにする。 2. 辞書、参考書を使いこなし、まとまった英文を自分の力で読解する能力を高める。 3. 正しい発音を習得し、語彙を増やし、英語を聞き取って情報や話し手の意向を理解できる力、又、自分の考えや伝えたいことを英語で話したり書いたりして表現できる力を養う。 4. 言語活動の土台となる文法事項を正しく理解し使いこなせるようにする。							副教材	・NEO現代を探る Advanced (いわずな書店) ・共通テストリスニング10.min (エミル出版) ・共通テスト英語読解トレーニング

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	【読解】 NEO現代を探る Unit1 Almond Unit3 Hat Unit6 Language Unit8 Crow 【リスニング】 Focus on Listening 16～20 【速読】 共通テスト英語読解トレーニング 1～5	【読解】 NEO現代を探る Unit10 Healthcare Unit5 Skin Lightening Unit13 Population Unit15 Cry Unit17 Life 【リスニング】 共通テストリスニング 10.min 第10回～第14回 【速読】 共通テスト英語読解トレーニング 6～10	【読解】 NEO現代を探る Unit19 Communicatin Unit2 Relationships Unit4 Time Unit11 Stress Unit17 Life 【リスニング】 共通テストリスニング 10.min 第19回～第24回 【速読】 共通テスト英語読解トレーニング 11～15 夏季休業中 Unit 20 Cognitive Linguistics	【読解】 NEO現代を探る Unit14 Social Proof Unit9 Elephant Unit16 Sleep Unit18 Discrimination 【リスニング】 共通テストリスニング 10.min 第25回～第29回 【速読】 共通テスト英語読解トレーニング16～20 期末考査後 Unit 20 Cognitive Linguistics	共通テスト対策演習 Reading / Listening
指導項目	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム	単語・文法 長文読解・リスニング イディオム
補講講習	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
実施しない	単語・文法 長文読解・リスニング 記述式模試	単語・文法 長文読解・リスニング マーク式模試	夏期講習実施	実施しない	単語・文法 長文読解・リスニング 記述式模試	単語・文法 長文読解・リスニング マーク式模試	個別添削指導実施	実施しない	共通テスト本番	

評価の観点 評価方法	定期考査、小テストに加えて、提出物、予習状況や授業中の姿勢やノートの作成などさまざまな観点から総合的に判断する。
---------------	--

日常の 学習方法	※別紙参照。授業担当者の指示に従うこと。
-------------	----------------------

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	英文の概要を把握するような読解ストラテジーを身に付けるよう予習や課題に取り組むこと。理解した英文は活用できるように音読トレーニングやパターンプラクティスを行うこと。一方で、難解な英文を正確に理解したり、詳細な情報を英文から得たりするために必要な文法や文構造の知識を身に付けるようにすること。必ず音声を活用して4技能が総合的に伸びるよう学習すること。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	英語表現Ⅱ	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	村上・杉山・中川・吉川・宇田川
	外国語	講座名	英語表現Ⅱ	単位数	2単位	形態	習熟度別	教科書	Unicorn 2 (文英堂)
目標 (学習を通して身につける学力)	1. 幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で書いたり話したりして伝える能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 2. 論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語を書く力をつける。 3. 基本的な文法事項を押さえながら、問題演習を繰り返し、応用力の養成を目指す。							副教材	・入試必携英作文 Write to the Point 三訂版(教研出版) ・Critical Point 2 英文法・語法問題集(エミル出版) ・英文法・語法 Vintage New Edition (いっずな書店) ・ブレイクスルー 総合英語(美誠社)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	【英作文】 入試必携英作文 Write to the Point Lesson 3 目的の表現 ～ Lesson 6 時制(2)  【文法・語法・表現】 Critical Point 2 英文法語法問題集 1 動詞 2 時制 3 助動詞・受動態 13 実戦演習1 14 実戦演習2  Vintage ①526～576 ②577～622 ③623～671 ④1～39 ⑤40～79	【英作文】 入試必携英作文 Write to the Point Lesson 7 動詞の語法 ～ Lesson 10 数字の表現  【文法・語法・表現】 Critical Point 2 英文法語法問題集 5 準動詞1 6 準動詞2 7 準動詞3 15 実戦演習3 16 実戦演習4  Vintage ①114～154 ②155～204 ③763～812 ④813～847	【英作文】 入試必携英作文 Write to the Point Lesson 11 仮定・条件の基本 ～ Lesson 14 比較の応用  【文法・語法・表現】 Critical Point 2 英文法語法問題集 4 仮定法 8 関係詞 9 接続詞 17 実戦演習5 18 実戦演習6  Vintage ①80～113 ②205～259 ③260～321 ④672～704 ⑤705～762 ⑥1308～1357	【英作文】 入試必携英作文 Write to the Point Lesson 15 譲歩の表現 ～ Lesson 18 Aは...だ Paragraph Writingについて  【文法・語法・表現】 Critical Point 2 英文法語法問題集 10 疑問詞・疑問文 11 比較 12 否定・倒置など 19 実戦演習7 20 実戦演習8  Vintage ①433～476 ②376～432 ③477～528 ④326～375 ⑤1358～1406	共通テスト対策演習 Reading / Listening
指導項目	①英語の骨組みとなる語順と骨組みを膨らませていく方法。 ②日本語と英語の相違点 ③文型や表現の型を駆使して、英語で表現する方法。 ④範囲の文法事項の確認、応用。 ⑤パラグラフ・ライティングの取り組み方	①英語の骨組みとなる語順と骨組みを膨らませていく方法。 ②日本語と英語の相違点 ③文型や表現の型を駆使して、英語で表現する方法。 ④範囲の文法事項の確認、応用。 ⑤パラグラフ・ライティングの取り組み方	①英語の骨組みとなる語順と骨組みを膨らませていく方法。 ②日本語と英語の相違点 ③文型や表現の型を駆使して、英語で表現する方法。 ④範囲の文法事項の確認、応用。 ⑤パラグラフ・ライティングの取り組み方	①英語の骨組みとなる語順と骨組みを膨らませていく方法。 ②日本語と英語の相違点 ③文型や表現の型を駆使して、英語で表現する方法。 ④範囲の文法事項の確認、応用。 ⑤パラグラフ・ライティングの取り組み方	総合的な読解力及びリスニング能力
補講講習	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導	個別添削指導

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
実施しない	単語・文法 長文読解・リスニング  記述式模試	単語・文法 長文読解・リスニング  マーク式模試	夏期講習実施	実施しない	単語・文法 長文読解・リスニング  記述式模試	単語・文法 長文読解・リスニング  マーク式模試	個別添削指導実施	実施しない	共通テスト本番	

評価の観点 評価方法	定期考査、小テストに加えて、提出物、予習状況や授業中の姿勢やノートの作成などさまざまな観点から総合的に判断する。
---------------	--

日常の 学習方法	※別紙参照。授業担当者の指示に従うこと。
-------------	----------------------

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	基本的構文を理解し、書くことを通して、正しい文を書く力を養うと同時に、熟語・構文を駆使して英語の表現力をつける。また、国立大学2次試験の長文英作文、一部私大の自由英作文に対応できるように、基礎力の充実を計る。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	情報の科学	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	羽賀 康博・新城欣一・岡田夏彦
	情報	講座名	情報の科学	単位数	2単位	形態	クラス単位	教科書	情報の科学(東京書籍)
目標 (学習を通して身につける学力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解する</li> <li>情報に関する科学的な見方や考え方を身につける</li> <li>情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、情報を収集、処理、表現できるようになる</li> <li>情報社会に積極的に参画する態度を育む</li> </ul>							副教材	情報最新トピック集2021高校版(日本文教出版)

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報社会に生きる私たち</li> <li>情報のデジタル化</li> <li>二進法と十六進法</li> <li>様々なデジタル表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの構成と処理の仕組み</li> <li>論理回路</li> <li>モデル化とシミュレーション</li> <li>アルゴリズムとプログラム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決</li> <li>データの分析</li> <li>情報通信ネットワークの仕組み</li> <li>HTML</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベース</li> <li>社会の情報化</li> <li>情報社会の安全</li> <li>情報社会における法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの情報社会</li> <li>1年間のまとめ</li> </ul>
指導項目	基本的なコンピュータの操作 データの変換と加工 コンピュータを利用した演習	日常的に利用するコンピュータの理解 コンピュータに可能なこととその限界	発想法と情報の分析 表計算ソフト等を利用した処理 インターネットを利用した演習 Webページの作成・編集	分析に適したデータへの変換と構造の理解 自信を取り巻く社会の相対化 現在の方と進む情報社会における課題	1, 2学期の内容を踏まえ社会の発展を考察
補講 講習					

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>授業での課題</li> <li>提出物の内容</li> <li>出席状況や授業態度等</li> </ul> 以上を総合的に評価する
---------------	--

日常の 学習方法	①授業 授業時間を効率的に利用するために、コンピュータのログイン等の準備を授業開始までに済ませておく。 授業に集中的に取り組み、課題等を授業時間内に完成させる。 ②家庭学習 情報技術や社会の変化に関心を持ち、報道や情報技術やサービスに関わる解説を見る習慣をつける
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	情報技術を活用するスキルやその科学的な理解、情報社会に対する態度は、高校在学中のみならず卒業後の学習や生活の基盤となる。
--------------------------------	--

令和5年度(2023年度) 授業計画	教科名	科目名	総合的な探究の時間	年次	3年次	区分	必履修	担当者名	3年次担任
	総合的な探究の時間	講座名	総合的な探究の時間	単位数	1単位	形態	クラス単位	教科書	
目標 (学習を通して身につける学力)	学校の目標である「生き方教育、自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択する教育を推進する」ことを踏まえ、キャリア教育として進路研究、進路探究を中心に、自己実現を可能にする力を養う。また、主権者教育を通して、積極的な社会参画を促す。							副教材	

	< 1学期前半 >	< 1学期後半 >	< 2学期前半 >	< 2学期後半 >	< 3学期 >
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画の立て方</li> <li>模試自己採点および振り返り</li> <li>「進路のしおり」活用法</li> <li>オープンキャンパスについて</li> <li>大学入試相談会や学園祭について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模試自己採点および振り返り</li> <li>夏休みの過ごし方</li> <li>戸山戦からの切り替え</li> <li>難関私大対策会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テスト説明会</li> <li>模試自己採点／振り返り</li> <li>学習計画の調整</li> <li>文化祭からの切り替え</li> <li>国公立入試対策会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受験スケジュール</li> <li>模試自己採点／振り返り</li> <li>学習計画の調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テスト</li> <li>共通テストリサーチ／返却</li> <li>個別入学試験に向けた生徒指導</li> </ul>
指導項目	学習計画を立案することで、今年度の取り組みを明確化する。オープンキャンパスや、学園祭などの情報を収集し、進学先を探究する。	模擬試験の結果などから、今後の学習計画を修正する。夏休みの過ごし方を考える。	大学入学共通テストに向けた説明会を行い、申し込みや受験上の注意点について説明する。	効果的に学習するためにはどんな計画が有効かを考えるとともに、進路の目標を明確にし、目標に沿った計画を作成する。	大学入学共通テストの受験結果を振り返り、二次試験・私大入試に向けた進路指導を行う。
補講講習	なし	なし	なし	なし	なし

特別考査(春) 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲		夏期休業期間	特別考査(夏) 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲		冬期休業期間	特別考査(冬) 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	各学習における活動状況及び、提出されたワークシート等をもとに総合的に判断し、評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	総合的な探究の時間においては、自らの進路決定に資する様々な活動を行う予定である。その目的を常に考えながら行動してほしい。また、この科目で学んだことを自らの進路選択にいかすことが望まれる。
-------------	---

履修上の注意 (発展的な 科目との関 連)	必履修科目である
--------------------------------	----------